

2009年12月11日 NIKKEI NET

## センチネルリンパ節生検用の医療機器「センチプローブ」を

### 販売開始(日本メジフィジックス/ファイバーテック)

特定保守管理医療機器・核医学装置用手持型検出器

「センチプローブ(R)」の承認取得と販売開始について

～センチネルリンパ節生検時の機器操作性向上により乳がん診療への貢献をめざす～

日本メジフィジックス株式会社(本社:東京都江東区 代表取締役社長:三上信可)と、ファイバーテック株式会社(本社:東京都千代田区 代表取締役社長:妻沼孝司)は、このたび、乳がん、悪性黒色腫等の診療において実施されているセンチネルリンパ節生検に用いられる医療機器「販売名:センチプローブ(R)」の販売を2009年12月11日から開始いたしますのでお知らせします。

「センチプローブ(R)」は、「投与した放射性医薬品の放射線(ガンマ線)の体表面からの検出」を使用目的とする管理医療機器で、放射線検出技術に高い実績を持つ浜松ホトニクス株式会社からの技術導入により日本メジフィジックスが開発し、2009年12月2日付で製造販売承認を取得しました。ファイバーテックは、日本メジフィジックスから「センチプローブ(R)」の販売を受託し、国内における供給体制を構築します。なお、製造に関しては共同開発者である浜松ホトニクス株式会社に委託します。

「センチプローブ(R)」は、乳がん、悪性黒色腫の診療において実施されているセンチネルリンパ節生検に用いられる医療機器です。センチネルリンパ節生検は、がんからのリンパ流を最初に受けるリンパ節であるセンチネルリンパ節を同定することにより、がん細胞のリンパ節転移の有無を確認するために行われます。

従来、乳がんの手術においては腋窩リンパ節郭清(腋の下のリンパ節の切除)を必須としてきましたが、これに伴う合併症として上肢のむくみ、リンパ液の貯留、運動障害、知覚異常や疼痛を特徴とする神経障害などが報告されてきました。センチネルリンパ節生検によりがん細胞のリンパ節転移が確認されなければ、広範なリンパ節切除が不要となり、これら合併症の減少や入院期間の短縮など術後QOL(Quality of Life)の向上に寄与すると考えられます。

センチネルリンパ節生検は乳がん、悪性黒色腫の診療において既に多くの医療機関で実施されていますが、「センチプローブ(R)」はその機能と形状から術者の利便性を高めることが明らかであり、本技術のさらなる普及に貢献するものと期待されています。 以上